

調査等事項報告（団体名：市政・公明クラブ）

視察先	福島県矢吹町屋内外運動場「未来くるやぶき」
対応者	議長 藤井源喜、副議長 堀井成人、教育委員会子育て支援課長 小 椋 勲、子育て政策係長 立石勇輝、子育て政策係主査 小山下裕輝 議会事務局長 氏家康孝、次長 鈴木直人
視察日時	令和7年1月29日 午前10時30分 ～ 午前11時50分
視察項目	矢吹町屋内外運動場「未来くるやぶき」
視察者	矢萩浩次、吉田 創、柴崎亮太、高橋菜穂子、細矢清隆、大山正弘、 秋葉新一、石澤祐一、田中正信、瀧田順子、森 直也
報告者	石澤祐一
視察の内容	施設整備の経緯及び目的 東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故（80 k m離れている）発生後、子どもが屋外で十分に遊びや運動ができる機会が減少し、運動量や体力の低下が見られたことから子どもの運動機会の確保と乳幼児から小学校低学年及び保護者が放射能の影響を気にせず安心して遊べる運動場の提供を目的に実施した。「遊びを通した子育て！」として、エアトラック・ベビーゾーンなどが設置され、子育て支援センターも併設。屋外にはフットサルコートが整備された。 平成25年度事業計画 平成26年7月から翌年3月まで建設 平成27年3月27日 オープン 総事業費 601,818,000円 工事費 518,238,000円（子ども元気復活交付金 補助率10/10） 委託費 36,990,000円（子ども元気復活交付金 補助率10/10） 遊具費 46,590,000円（屋内遊び場確保事業補助金 補助率2/3） 他に土地購入費 5,100,000円 開館時間 屋内運動場 午前10時から午後5時まで 完全入替制の導入 混雑時は安全確保のため入場制限（100名まで） フットサルコート 午後5時から午後9時まで

施設運営

H26～H29まで 業務委託による運営実施

H30～現在 指定管理制度を導入した運営実施

- 屋内運動場 無料（利用対象 0歳から小学3年生）
保護者同伴（1人につき児童3人まで）
保護者が管理及び安全にできる人数
- フットサルコート 有料

維持管理費

令和6年度 29,444,000円のうち18,000千円は国より補助

遊具の点検は年4回専門業者により点検実施

子育て支援センター 2階に開設

親子の交流

子育てに関する相談・援助（相談員の配慮）

子育て支援に関する講習等

建設後の反響

年間5万人の利用があり、令和3年11月19日に来場者数30万人を達成。

利用者からは「きれいで広くて遊びやすい」「子どもが楽しみにしてお父さんと一緒に遊びに来ることが多い」「思い切り走り回れるのが良い」「スタッフが子供と一緒に遊んでくれてやさしい」等の意見がある。

JR矢吹駅の目の前で町外の来場者も多いことから中心市街地のにぎわい創出の拠点として非常に効果の高い施設である。

（来場者 町内3割、町外7割となっている）

視察しての感想

当市では子供たちの屋内遊び場がなく、子供たちは近隣市へ行っている状況で、今後の取り組みができるか大いに参考となった施設でありました。

調査等事項報告（団体名：市政・公明クラブ）

視 察 先	福島県石川郡石川町「ひとくらす」
対 応 者	一般社団法人ひとくらす 代表理事 三森孝浩
視察日時	令和7年1月29日(水) 14時00分 ～ 15時30分
視察項目	自然環境活用型地域交流施設「ひとくらす」について
視 察 者	矢萩浩次、吉田創、柴崎亮太、高橋菜穂子、細矢清隆、秋葉新一、 大山正弘、石澤祐一、田中正信、瀧田順子、森直也
報 告 者	森直也
視察の内容	概要 「ひとくらす」は廃校を利用して「火」と「暮らし」をテーマに体験や学習ができる場所として、火の回りに皆が集まった時のように、この学校にまた人々が集うことを目指して2021年に開設した。 1 設立の経緯や目的について 1991年に現在の福島県石川郡石川町に建てられ、2015年に廃校となった「旧中谷第二小学校」の利活用プロジェクトとして始まった。小学校の建設当時はすでに鉄筋コンクリートの建物が一般的であったが、地域の人たちの声によって木造の校舎が建てられた。人口減少などの影響により2015年に廃校が決まり、その後は、町外の企業が敷地を再利用する案もあったが、町の人々が気軽に利用できなくなるため、「この場所は町の人が集まる場所として残したい」と住民と石川町役場が協議して、交流施設としての再スタートが決まった。 2 地域との関わりについて 石川町の森林を利用した林業体験、農地を利用した農業体験、DIY体験を展開している。また、施設内の宿泊機能を活用して他地域からの訪問を受け入れており、移住者や二拠点生活を考えている人の窓口にもなっている。 3 施設を運営している一般社団法人ひとくらすの団体構成について 石川町の豊かな自然を最大限に活かす「自然環境活用型の交流施設」というコンセプトで地域住民の協力を得ながら運営をしている。 主たる事業：①企業への賃貸管理 ②各種体験の開催 ③簡易宿泊の管理

4 施設の利用状況（利用者、利用人数など）について

レンタルオフィスやスポーツ施設、バーベキュースポットなどとして、地元の方が日常的に使っている。また、「ひとくらす」は宿泊施設と運動場が一体となっているため、部活動やスポーツチームの合宿で多くの人が利用している。スポーツ以外にも、温かみのある木造校舎というロケーションを活かして、撮影スポットとして使われることもあるなど、利用者の多くがリピーターになっている。

施設内視察

- ・23人まで宿泊可能な和洋室（和室15畳、洋室6ベッド）
- ・談話室（キッチン、冷蔵庫、電子レンジ、食器類）
- ・暖房（FFヒーター）完備
- ・食事の提供はなし（予約により弁当、食材の注文できる）
- ・レンタルルーム
- ・多目的ホール
- ・音楽室
- ・調理室
- ・工作室
- ・和室 など

調査等事項報告（団体名：市政・公明クラブ）

視 察 先	文京区青少年プラザ b-lab（ビーラボ）
対 応 者	文京区教育委員会 児童少年課 青少年係長 川邊郷士 文京区青少年プラザ b-lab 館長 山本晃史
視 察 日 時	令和 7 年 1 月 3 0 日（木曜日） 1 0 時 0 0 分～ 1 1 時 3 0 分
視 察 項 目	b-lab を設立した目的・経緯について 中高生の成長を引き出す取り組みと課題について 学校との連携について
視 察 者	柴崎亮太・石澤祐一・田中正信・森直也・瀧田順子
報 告 者	瀧田順子
視察の内容	1. 青少年プラザ b-lab 主として中学生と高校生を対象に自主的な活動の場及び交流の場を提供することにより、青少年の自立性及び社会性を育むための施設です。 「中高生の秘密基地」をコンセプトに、リビングのようなスペースや、勉強、バンド活動、ダンスなどができるスペースがあるほか、文化、学習支援などのイベントなどを実施し、さらには中高生がイベント企画や b-lab 運営に関わるステージもある。「b-lab」の名称は公募により高校生が名前をつけている Bunkyo laboratory(研究室・実験室) 2. 施設の概要 (1) 平成 2 7 年 4 月 1 日文京区教育センター内に開設 (2) 年末年始を除き通年開館 利用は午前 9 時から午後 9 時まで（中学生は午後 8 時まで） (3) 設置施設 ① 中高生談話スペース 145 m²（談話・読書・自習・工作・調理・pc貸出など） ② ホール 142 m²（ダンス・演劇・合唱等） ③ 音楽スタジオ A36 m²（楽器演奏・グループ） ④ 音楽スタジオ B12 m²（個人） ⑤ プレーヤード 205 m²（屋外での軽運動・バスケットボール等） ⑥ ＊研修室部屋計 223 m²（自習室として活用）

⑦ ＊軽運動室 144 m²（室内での軽運動・卓球等）

⑧ その他 82 m²（スタッフスペース・倉庫）

＊は教育センターとの共用 ・ 中高生の使用は無料

(4) 施設利用・対象

主に区内在住・在学・在勤の中学生及び高校生の世代

利用者登録を行い、入管カード発行・入管管理はpc・バーコードを使用

3. 実施事業

(1) 文化・スポーツ事業⇒中高生が興味を持つ様々な分野の講座や講演会

(2) 学習支援事業⇒各種講座や学習支援イベント、自習サポート

(3) 広報誌の作成

⇒①中高生向け広報誌「cha-cha-cha」高校生参加して年2発行

②中高生向けのイベント告知「b-lab たより」毎月発行

③区内中学・高等学校等の教職員向け広報「b-lab 通信」

4. 施設運営

認定特定非営利活動法人 カタリバ

＊今期の委託期間 令和6年4月1日～令和9年3月31日

5. 研修内容

(1) b-lab を立ち上げた目的と経緯について

心とからだの居場所作りをすることで一人の人間として社会貢献となる

平成13年度 文京区青少年問題協議会において「青少年の居場所検討部会」「青少年の社会参加検討部会報告」を策定。平成16年度青少年育成プラン「はじめの一步」を策定。 何度となく委員会を経て平成25年12月青少年プラザ条例策定

(2) 中高生の成長を引き出す取り組みについて

「やってみたい（何でもよい、眠りたかったら寝ていてもいい、調理をしたければそれもいい）」の背中を押し、職員が相手になり情報を取り、繋げて参加させて、自主企画をサポートする。すきを形にする 中高生と一緒に仲間作り、又年齢の近い大学生のスタッフが兄・姉の存在がいる事で、悩み相談ができることで成長を促す。

(3) 学校との連携について

広報誌配布、希望のある学校に b-lab が出張して授業を行い交流の場を作っている。

6. 所感

b-lab は基本的に中高生が優先的に利用出来る様になっているが、音楽スタジオは中高生の予約が入っていない時、(9 時～12 時・12 時30 分～15 時30 分) 有料で利用できる。付帯設備の楽器は中高生勿論無料、pc・ボードゲーム・ドラム・ギター・ベース・シンセサイザー・音響設備等

子どもたちは、みんなフラット平等というのが基本の考え、貧困だから、裕福だから無い。貧困だから特別に大人が何かをすることは、子どもの仲間に知られたとき、歪となりうる。心の揺れ動く感受性の高い年代だからこそ、社会に貢献できる子供・何かをできる・仲間を作れるを育てる事が大切。